

共に歩まん

令和7年2月25日発行

第27号

中信教育事務所

ご意見はこちら→



←過去の「共に歩まん」はこちら

【シリーズI】ワクワクする授業～外国語科編～

麻績村立筑北中学校の石川文香先生は、「Unit6 Research Your Topic (New Horizon 2)」において、「修学旅行でクラスのみんなどやりたいことについて、先生に採用してもらえるように英語でプレゼンする（話すこと [発表]）」単元を構想しました。

みんなの思い出を残したいMさんは、「来年度の高校入試に向けて、お揃いの学業御守りを買いたい」と考えました。しかし、Mさんには、御守りを買うことに友達が賛同してくれるかという不安がありました。



石川先生



買いたくない人もいるかも…。
「御守りのよさ」を加えよう。

そこで、実際に購入することができる御守りを検索し、“The amulet is not expensive. (高価ではないこと)” “There are many colors. They are cute. (カラフルでかわいいものがあること)” を御守りのよさとして発表内容に加えました。

I want to buy matching amulets.
First, I want to leave a lasting memory of everyone.
Second, the amulet is not expensive.
A kiyomizu-dera amulet costs around 400 to 500 yen. There are also 100 yen ones.
Finally, there are many colors. They are so cute.

発表内容を何名かの友に伝えると「いいね」や「御守りを買いたい」という肯定的な反応が返ってきました。Mさんは「みんなにお揃いの御守りを買いたいかのアンケートをとれば、きっと多くの友が買いたいと言ってくれるのではないかな。その結果を示せば説得力が増して先生に採用してもらえるだろう」と考えました。



「先生に採用してもらおう」という目的に向かって追究していたMさん。友の反応を見て嬉しそうにする姿やアンケートという次のステップに動き出そうとする姿から、Mさんの「ワクワク」を感じました。それはきっと、プレゼンすることで「お揃いの学業御守りを買いたい」という自分の願いが実現するかもしれないという期待からなのではないでしょうか。

ポイント

実際のコミュニケーションが“自分事”となっていること

学級担任でもある石川先生は、教科書の題材と数か月後に控えた修学旅行を結び付けて単元を構想されました。石川先生が採用したくなるようなプレゼンができれば、修学旅行でクラスのみんなどやりたいと自分が思っていることが現実のものになるかもしれない。まさに、単元終末に行う英語での発表（実際のコミュニケーション）が、生徒たちにとって“自分事”となっていました。

修学旅行でクラスのみんなどやりたいことについて、わざわざ英語を使って話さなくてもよいのではと思うかもしれないね。でも、外国語科の授業においては「自分事となるコミュニケーション」という点で価値があるんだね。給食の希望献立やクラスの合唱曲についてなど普段の学校生活の中に「自分事となるコミュニケーション」になるテーマは意外と多いかも。自分事になるとより子供のワクワクが高まりそうだね。

